

# 高嶋英男

近年、陶器、とりわけ壺や花瓶を身体と結びつけた作品に継続的にとりこんでいる。人(動物)と陶器の複合体には「顔」の部分が花瓶の口に置き換わりぼっかりと大きな穴がある。

花瓶の口は花や水がはいる場所として本来それ自体を注目する存在ではないが、そんな花瓶の口が人の顔に置き換わることで地と図が反転し 普段注目しない穴が主役になる。皮膚(表面)だけで身体を維持しているその存在は頼りなくも、ある種のリアルなものとしてそこに存在している。



1981年 東京都府中市生まれ  
2010年 多摩美術大学 美術学部工芸学科卒業  
2012年 多摩美術大学 大学院美術研究科工芸専攻修了  
2014年 東京芸術大学大学院彫刻専攻修了

<https://www.hideotakashima.com/>

- 個展**
- 2012年 「Hideo Takashima Exhibition」 KOKIARTS (東京)
  - 2015年 「空の心」 ギャラリーマルヒ (東京)
  - 2017年 「彫刻彫刻—Bonito Sculpture—」 KOKIARTS (東京)
  - 「新世代への視点 2017」 ギャラリー-Q (東京)

- グループ展**
- 2010年 「群馬青年ビエンナーレ 2010」 群馬県立近代美術館 (群馬)
  - 2011年 「第14回 岡本太郎現代芸術大賞展」 川崎岡本太郎美術館 (神奈川)
  - 2013年 「PAT in Kyoto 京都版画トリエンナーレ 2013」 京都市美術館
  - 「Cabinet Da-end 03」 Da-end gallery (パリ)
  - 2014年 「リマッピング日比谷プロジェクト 2014 都市と境界に現れるアート」 日比谷公会堂 (東京)
  - 2015年 「ヤングアート台北 2015」 シェラトングランア台北ホテル (台北)
  - 2016年 「Young International Art Fair」 ブリュッセル (ベルギー)
  - 2017年 「spiral take art collection 2017 蒐集家商」 スパイラルガーデン (東京)

- 受賞歴**
- 2006年 「タマコン」 グランプリ受賞
  - 2007年 「みずなみ陶土フェスティバル」 準グランプリ受賞
  - 2008年 「第44回神奈川美術展」 入選
  - 「多摩美術大学展示大賞展」 審査員特別賞受賞 審査員 諸川春樹氏
  - 「多摩美術大学展示大賞展」 審査員特別賞受賞 審査員 榎木野衣氏
  - 2009年 「多摩美術大学展示大賞展」 審査員特別賞受賞 審査員 辛酸なめ子氏
  - 2010年 「多摩美術大学展示大賞展」 審査員特別賞受賞 審査員 辛酸なめ子氏
  - 「群馬青年ビエンナーレ 2010」 入選
  - 2011年 「第14回岡本太郎現代芸術大賞展」 入選

**Access**



**GALERIE PARIS**

〒231-0021  
神奈川県横浜市中区日本大通14 旧三井物産ビル1F  
TEL:045-664-3917  
<http://www.galerieparis.net/>



高嶋英男 < 壺の人 > 2017  
陶/釉薬/箔 H36×18×15cm



高嶋英男 < 壺の鳥 > 2016  
陶/釉薬/箔 H12×14×5cm

※画像はイメージであり、今回出品していない作品も含まれます。

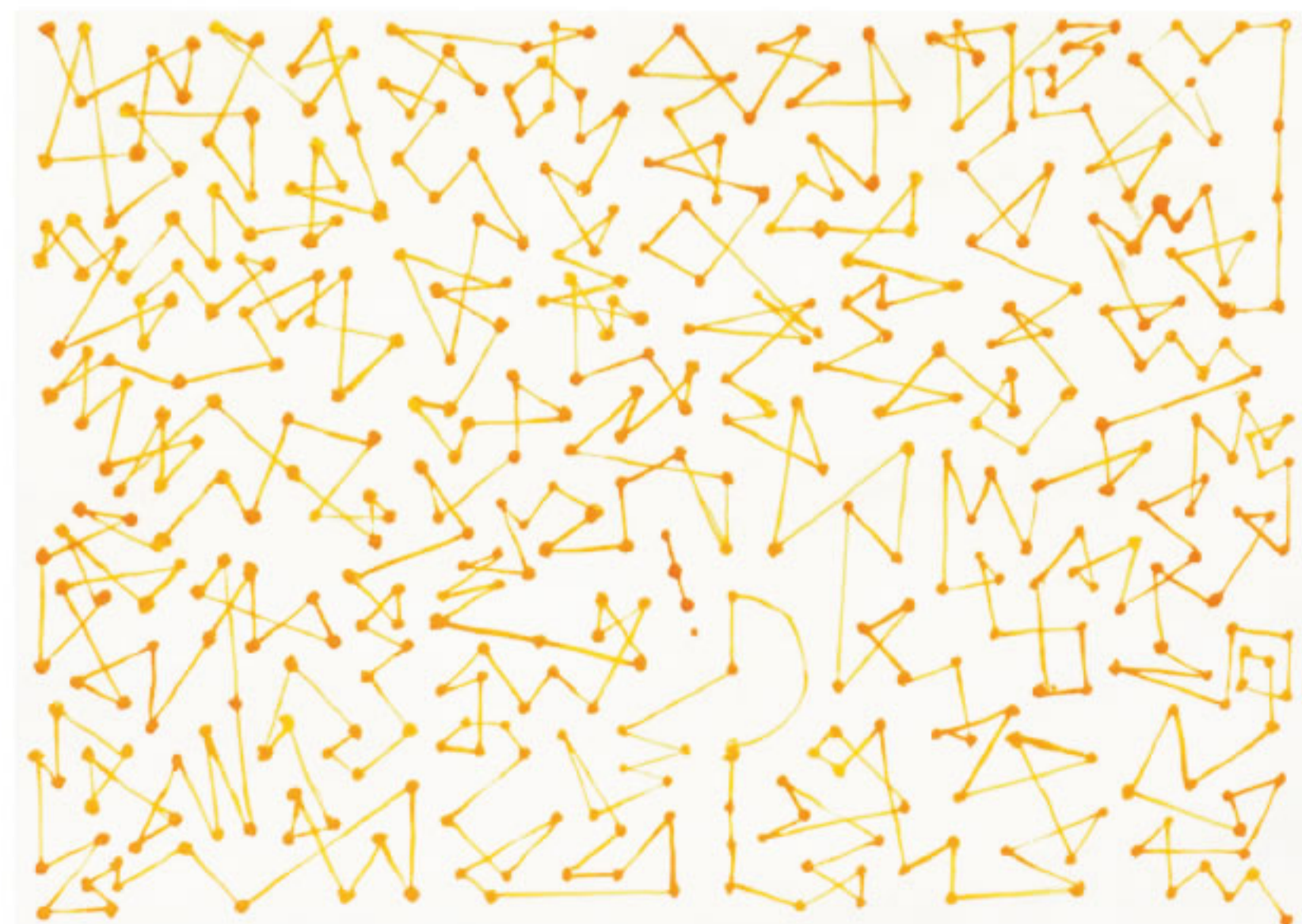
本企画展はそんな、一見、異なる背景を持つ2人の作品の特徴を「点と穴」というキーワードとともに結びつけ、構成します。

川島弘子は日本のIT業界の黎明期にそのキャリアをスタート、コンテンツ運営やデジタルによるキャラクターやデザインなどの制作に携わりつつ、点をつないで絵を浮かび上がらせる点つなぎパズルを中心にイラストパズル誌に多数連載を持つ人気パズル作家です。その多様な営みの中で、手で直接木を彫り形を生み出す、紙に絵を描くなど、原初的な衝動に突き動かされた作品の制作に近年取り組むようになりまます。それらはエモーショナルな力を感ずると同時にパズルのような幾何学的視点も併せ持つ独自の世界といえます。

高嶋英男は人の身体を型どりした人型を用い人物の特徴を現実、虚構、織り混ぜてインスタレーション化する作品や本来注目しない花瓶の口の空洞部分を顔に置き換えた「顔が穴」になった人型の陶器、食材としての鰹節を使った彫刻作品など日常の周辺にあるイメージを拡大、反転させながら作品化してきました。ときに不可解さをもたすユーモアを含んだそれらの作品は見るものに強い印象を与えます。



川島弘子 < キ.1 > 2018 檜 H7×8.5×4cm



川島弘子 < 思考する点 > 2018 和紙/岩彩 H24.2×33.3cm

# 点と穴

●川島弘子 ✕ 高嶋英男 ○

2018 8.3 FRI — 8.19 SUN

GALERIE PARIS 12:00~19:00 最終日17時まで(5日、12日休廊)



川島弘子 < 自画像 > 2018 和紙/岩彩 H22.7×15.8cm

- 1975年 福島県会津若松市生まれ  
1996年 國學院大学文学部文学科卒業  
2004年 点つなぎ、イラストロジック用パズル問題をパズルサイト、パズル誌にて連載開始  
2006年 有限会社0.1t設立。イラスト、キャラクター制作、スマホ用アプリ等の企画制作。



<http://ooec.net/>

- 2015年 横浜商科大「経営情報特論A」発のベンチャー企画YOT(よつと)の開始。  
学生と共に商品の企画制作、プロモーション、ならびに、インターネットを利用した販売を行う。



<http://shodai.saleshop.jp/>

日本画、木彫にて独自の制作をはじめ

感覚をかたちにするとき、まず、はじまりの点がある。始点から終点へ、点、点、点とつなげていくと線になり面になり、ときたま立体へと変化する。そうしていくと、自分の中の視点が変わり、もののかたちの次元も変わる。インプットからアウトプット、連続と続く物質の変換と転換。内在するイメージが、より明確になって出現してくる。具現化された感覚は、情報として他方への伝達・共有を促し、コミュニケーションを図るツールとしても有効だ。そうして、また新しいなにかへとつながっていくことで、進化そのものを体感しているような気にすらなれる。そのときどき、時点ごとにはできるもので、自分の在りようを示していきたい。

# ●川島弘子